

科目名	看護学概論 (Introduction to Nursing)			科目コード	201
開講学科	看護学科	選択区分	必修	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)
科目区分	専門科目	履修時期	1 年次前期	関連DP	看①③⑤
担当教員	野本 百合子				
授業概要	看護を理解する基盤となる主要概念や理論や対象の特徴、看護専門職の歴史的経緯等の講義を行う。また、自らの日常生活を振り返って人間の生活を理解したり、将来を展望したりするため、レポートやグループワーク、発表等の課題を提示する。さらに、学生が自身の意見を主張する能力を修得するために、提示されたテーマについての討議や看護が提供される場を理解するための病院見学を実施する。				
授業目標	1 看護の目的や対象となる人間の特徴を理解する。 1) 人間や健康、社会の概念を前提に、人間の身体的、精神的、社会的特徴を述べる。 2) 1) の特徴を持つ人間に対する看護とは、どのようなものかを説明する。 2 看護理論や活動の法的基盤、看護職の社会的役割、看護職の歴史等を学習し、看護に関わる諸概念や看護学と看護実践の関連、看護専門職の役割を理解する。 1) 看護が職業として成立した過程を説明する。 2) 看護職が専門職として活動するための法的基盤や理論などを説明する。 3 他学生とのディスカッションを通して、専門職としての態度を習得する。 1) ディスカッションテーマについての自己学習に基づき、自身の意見を述べる。 2) 他者の意見を聴取すると共に、その意見に対する自身の考えをまとめて述べる。				

授業計画

回	項目	内容
1～2	看護学と看護の概念	実践の科学である看護学の学習 看護学の主要概念「人間」「健康」「環境」「看護」 看護の実践と看護学の関連
3～5	ライフサイクルと各発達段階における健康上の問題	人間のライフサイクルと発達の理論 人間の発達段階と健康上の問題 生活と健康の関連
6～7	看護の概念と実践	看護とは－看護理論と実践への活用 看護職の役割と学問としての看護 看護職としての活動を支える法的基盤
8～10	看護専門職への理解	職業としての看護－専門職とは何か 職業倫理と看護倫理 職業としての看護が成立するまでの歴史 わが国の看護職養成教育制度
11～14	社会における看護の役割と機能	看護職が活動する場 社会において看護職の果たすべき役割と機能 看護サービスの場とその組織の活動 専門看護師・認定看護師等の制度とキャリアアップ (※県立中央病院・伊予病院・四国がんセンター・済生会松山病院の見学を含む)
15	現在の看護職の活動と将来の展望	わが国における看護職の歴史を前提とした将来展望 看護職に対する社会的要請と看護専門職としての責務
成績評価方法		筆記試験 (60%)、課題レポート (30%)、ディスカッションレポート (10%) で評価する。
教科書		茂野香おる・長谷川万希子・林千冬「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔1〕看護学概論 第16版」(医学書院)
参考図書等		フローレンス・ナイチンゲール、湯槇ます「看護覚え書－看護であること・看護でないこと」(現代社) バージニア・ヘンダーソン、湯槇ます「看護の基本となるもの 新装版」(日本看護協会出版会) アイモジン・キング、杉森みど里「キング看護理論」(医学書院) 舟島なをみ「看護のための人間発達学 第5版」(医学書院)
授業時間外の学習について		7回のディスカッションを実施するため、提示されたテーマについての事前学習を要する。また、複数の課題に関するレポートを作成するための時間を要する。
関連科目		126 生命科学、127 生命倫理、203・204・205 基礎看護方法論 I・II・III、206 フィジカルアセスメント、207 看護過程、208・209 基礎看護学実習 I・II、その他、看護学各領域の科目その他、看護学各領域の科目
備考		基礎看護方法論 I との共同授業により「病院見学」を実施する (詳細は、授業時に説明)。